

(3) スイカ
ア 殺菌剤

農薬名	成分名	FRAC コード	適用病害虫名						注意事項
			うどんこ病	疫病	褐色腐敗病	菌核病	炭疽病	つる立枯病	
アフェットフロアブル	ベンチピラト	7	◎			◎	◎		
アミスターオブティフロアブル	アゾキシストロビン・TPN	11・M05	◎		◎	◎	◎	◎	
アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン	11					◎	◎	高温多湿条件下、また、浸透性展着剤及び液肥との混用は避ける。
アントラコール顆粒水和剤	プロピネブ	M03					◎	◎	
イオウフロアブル	硫黄	M02	◎						
オキシラン水和剤	キャブタン・有機銅	M04・M01					◎	◎	
オーソサイド水和剤80	キャブタン	M04					◎	◎	◎
カーゼートPZ水和剤	シモキサニル・マンゼブ	27・M03			◎			◎	
カスミンボルドー カッパーシン水和剤	カスカマイシン・塩基性塩化銅	24・M01	◎						
カーニバル水和剤	ジメトモルフ・TPN	40・M05					◎	◎	
カンタスドライフロアブル	ホスカリト	7					◎		
カンパネラ水和剤 ベネセット水和剤	ベンチアハカリカルブイソプロピル・マンゼブ	40・M03			◎				
キノンドーフロアブル	有機銅	M01					◎		
ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル	10・1					◎		
サンヨール	DBEDC	M01	◎						高温時の散布は葉害の恐れがあるので避ける。
シグナムWDG	ピラクrostロビン・ホスカリト	11・7	◎		◎	◎	◎	◎	
ジーファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・無水硫酸銅	NC・M01	野						野：【野菜類登録】 幼苗期、高温時の散布は避ける。
ジマンダイセン水和剤	マンゼブ	M03		◎			◎	◎	
ショウチノスケフロアブル	フルチアニル・メハニピリム	U13・9	◎						

農 薬 名	成 分 名	FRAC コード	適 用 病 害 虫 名							注 意 事 項
			う ど ん こ 病	疫 病	褐 色 腐 敗 病	菌 核 病	炭 疽 病	つ る 枯 病	苗 立 枯 病 R	
スクレアフロアブル	マンデ [®] ストロベン	11				◎	◎	◎		
ストロビーフロアブル	クレソキシムメチル	11	◎				◎	◎		浸達性展着剤との混用は避ける。
スミブレンド水和剤	ジ [®] エトフェンカルブ [®] ・フ [®] ロシミト [®] ン	10・2				◎		◎		
スミレックス水和剤	フ [®] ロシミト [®] ン	2				◎		◎		
セイビアーフロアブル20	フルジ [®] チゾニル	12				◎	◎			
ダコニール1000	TPN	M05					◎	◎		
ダコニール粉剤	TPN	M05					◎			
タチガレファイト液剤	ヒト [®] ロキシソキサゾ [®] ール	32							◎	
タチガレン液剤	ヒト [®] ロキシソキサゾ [®] ール	32							◎	
テーク水和剤	シメコナゾ [®] ール [®] ・マンゼ [®] ブ	3・M03	◎				◎	◎		
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	1				◎	◎			
トップジンMペースト	チオファネートメチル	1						◎		
トリフミン水和剤	トリフルミゾ [®] ール	3	◎						◎	
ニマイバー水和剤	ジ [®] エトフェンカルブ [®] ・ベ [®] ノミル	10・1	◎			◎	◎	◎		
バシタック水和剤75	メプロニル	7							◎	
パルミノ	キノキサリン系	M10	◎							
パレード20フロアブル	ピ [®] ラジ [®] フルミト [®]	7	う			う		う		う:【うり類(成熟)登録】
パンチョTF顆粒水和剤	シルフェナミト [®] ・トリフルミゾ [®] ール	U06・3	◎							
ピカットフロアブル	ペンチホ [®] ラト [®] ・メ [®] ニピ [®] リム	7・9	◎					◎		
ピクシオDF	フェ [®] ヒ [®] ラサ [®] ミン	17				◎				
ピシロックフロアブル	ピ [®] カルブ [®] トラゾ [®] クス	U17			◎					
プロポーズ顆粒水和剤	ペンチアハ [®] リカルブ [®] イソ [®] プロ [®] ピ [®] ル [®] ・TPN	40・M05			◎		◎			

農 薬 名	成 分 名	FRAC コード	適 用 病 害 虫 名							注 意 事 項
			う ど ん こ 病	疫 病	褐 色 腐 敗 病	菌 核 病	炭 疽 病	つ る 枯 病	苗 立 枯 病 R	
ファンベル顆粒水和剤	イミノクタジンアルベシル酸塩・ヒ°リベンカルブ	M07・11	◎			◎	◎	◎		
フェスティバルC水和剤	ジ°メトモフ・銅	40・M01			◎					
フルピカフロアブル	メ°ニコピ°リム	9	◎							
プロパティフロアブル	ヒ°リオフェン	50	◎							
ベジセイバー	ペンチピ°ラト°・TPN	7・M05	◎			◎	◎	◎		
ベトファイター顆粒水和剤	シモキサニル・ペンチア°カリカルブ°イソ°ロピ°ル	27・40			◎					
ベルコートフロアブル	イミノクタジンアルベシル酸塩	M07	◎			◎	◎	◎		
ベンレート水和剤	ベン°ミル	1				◎	◎	◎		
ペンコゼブ水和剤	マンゼ°ブ	M03			◎		◎	◎		
ペンコゼブフロアブル	マンゼ°ブ	M03					◎	◎		
フォリオゴールド	メタラキシルM・TPN	4・M05			◎		◎	◎		
ホライズンドライフロアブル	シモキサニル・ファモキサト°ン	27・11			◎					アルカリ性薬剤との混用を避ける。
ポリベリン水和剤	イミノクタジンアルベシル酸塩・ポリ°キシシ	M07・19	◎				◎	◎		
ライメイフロアブル	アミスル°ロム	21			◎					
ラミック顆粒水和剤	イミノクタジンアルベシル酸塩・ヒ°リオフェン	M07・50	◎			◎				
ラリー水和剤	マイクロ°タニル	3	◎							
ランマンフロアブル	シアゾ°ファミト°	21			◎					
リドミルゴールドMZ	マンゼ°ブ・メタラキシルM	M03・4			◎					
レーバスフロアブル	マンゾ°ブ°ロ°ピト°	40			◎					
ロブラール水和剤	イ°ロ°ジ°オン	2				◎		◎		
ICボルドー66D	塩基性硫酸銅	M01					◎	◎		

農 薬 名	成 分 名	FRAC コード	適 用 病 害 虫 名							注 意 事 項
			う ど ん こ 病	疫 病	褐 色 腐 敗 病	菌 核 病	炭 疽 病	つ る 枯 病	苗 立 枯 病 R	
〈 種 子 消 毒 〉										
オーソサイド水和剤 80	キャブタン	M04							◎	
〈 く ん 煙 剤 〉										
トリフミンジェット	トリフルゾール	3	◎							
ロブラールくん煙剤	イプロジホ	2				◎				

注1) 苗立枯病の対象病原菌の表記 R:Rhizoctonia

注2) イミクタジソアルベシル酸塩とイミクタジソアルベシル酸塩は、成分が「イミクタジン」として取り扱われるので、使用の際は有効成分の総使用回数を超えないように注意する。

農薬名	成分名	IRAC コード	適用病虫害名												注意事項	
			ア ザ ミ ウ マ 類	ミ ナ キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ブ ラ ム シ 類	ワ タ ア ブ ラ ム シ	ウ リ ノ メ イ ガ	オ オ タ バ コ ガ	ウ リ ハ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ハ モ グ リ バ エ 類	ハ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類		
エスマルク D F	BT	11A								野						野：【野菜類登録】
ガードホープ液剤	ホスチアセート	1B												◎		
カスケード乳剤	フルフェノクスロン	15		◎					◎							
カネマイトフロアブル	アセキノシル	20B											◎			
グレーシア乳剤	フルキサタミド	30	◎		◎			◎	◎		◎	◎	◎			
コテツフロアブル	クロルフェナピル	13		◎				◎	◎				◎			
コルト顆粒水和剤	ピリフリキザン	9B			◎	◎										
コロマイト水和剤	ミルベメクチン	6											◎			
コロマイト乳剤	ミルベメクチン	6											◎			
サンマイトフロアブル	ピリダベン	21A			◎	◎							◎			
スカウトフロアブル	トラロトリン	3A				◎										
スターマイトフロアブル	シエピラフェン	25A											◎			
スピノエース顆粒水和剤	スピノサト	5	◎													
スミチオン乳剤	MEP	1B	◎			◎										
スミロディー乳剤	フェンプロパトリン・MEP	3A・1B				◎							◎			
ダブルシューター S E	脂肪酸グリセリド・スピノサト	5	◎										◎			
ダニオーテフロアブル	アシナピル	33											◎			
ダニトロンフロアブル	フェンピロキシメート	21A											◎			
ダブルフェースフロアブル	ピフルミド・フェンピロキシメート	25B・21A											◎			
ダントツ水溶剤	クロチアジソン	4A		◎		◎				◎						

農薬名	成分名	IRAC コード	適用病害虫名											注意事項			
			ア ザ ミ ウ マ 類	ミ ナ キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ブ ラ ム シ 類	ワ タ ア ブ ラ ム シ	ウ リ ノ メ イ ガ	オ オ タ バ コ ガ	ウ リ ハ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ハ モ グ リ バ エ 類	ハ ダ ニ 類		ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類		
ダントツ粒剤	カチアジソン	4A		◎		◎											
チェス顆粒水和剤	ビメトジン	9B				◎											
ディアナSC	スピネラム	5	◎		◎			◎	◎		◎						
テデオン乳剤	テラジホ	12D										◎					
テルスター水和剤	ビフェントリン	3A				◎						◎					
デルフィン顆粒水和剤	BT	11A						野	野		野						野：【野菜類登録】
トランスフォームフロアブル	スルホキサフロ	4C			◎	◎											
トレボン乳剤	エトフェンプロックス	3A			◎	◎					◎						
トレボンEW	エトフェンプロックス	3A				◎											
ネマキック粒剤	イミダホス	1B													◎		
ネマキック液剤	イミダホス	1B													◎		生育期処理：薬液処理後に5～20リットル/㎡を灌水する。
ネマトリンエース粒剤	ホスチアゼート	1B													◎		
バイデートL粒剤	ホキサリ	1A		◎		◎									◎		
ハチハチ乳剤	トルフェンピラト	21A	◎		◎	◎											【うどんこ病にも適用】
ハチハチフロアブル	トルフェンピラト	21A	◎			◎											【うどんこ病にも適用】
バリアード顆粒水和剤	チアクプロリト	4A				◎											
バロックフロアブル	エトキサゾール	10B										◎					
ピラニカEW	テブフェンピラト	21A											◎				
ファインセーブフロアブル	フロトキ	34	◎														
フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド	28						◎	◎		◎						

オ 病害虫防除法（スイカ）

（ア）うどんこ病 *Sphaerotheca fuliginea*

（防除のねらい）
（耕種的防除法） } キュウリの項参照

（イ）疫 病 *Phytophthora drechsleri*

（防除のねらい）
キュウリの項参照。

（耕種的防除法）

降雨時には、つるがうね間の溝に落ちないように管理し、初期の病株や病葉は除去する。その他はキュウリの疫病に準ずる。

（ウ）菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

（防除のねらい）
（耕種的防除法） } キュウリの項参照

（エ）炭疽病 *Colletotrichum lagenarium*

（防除のねらい）

ハウス栽培では少ないが、露地栽培の雨期に激発する。果実に発病しないよう早期予防散布に努める。

（耕種的防除法）

- （1）露地では雨よけのトンネルをかける。
- （2）その他はキュウリの炭疽病を参照。

（オ）つる枯病 *Mycosphaerella melonis*

（防除のねらい）
キュウリの項参照。

（耕種的防除法）

- （1）定植は株元を高くし、株元に直接かん水せず、株元周辺を乾燥状態に保つ。
- （2）その他はキュウリのつる枯病に準ずる。

（カ）つる割病 *Fusarium oxysporum f.sp.niveum*

（防除のねらい）

土壌伝染と種子伝染をするので、この対策が必要となる。センチュウ被害を受けると、発生を助長するのでセンチュウ防除に努める。接木栽培を行うと発生を回避できる。

（耕種的防除法）

- （1）発病地では連作を避ける。
- （2）ユウガオ台に接木する。ユウガオつる割病発生地ではカボチャ、トウガン台を使用するとよい。
- （3）深植えをしないようにするとともに枯れ痛みをさせない。
- （4）石灰、完熟堆肥を施用する。

（キ）苗立枯病

（防除のねらい）
（耕種的防除法） } キュウリの項参照

（ク）褐色腐敗病 *Phytophthora capsici*

（防除のねらい）

本病菌はウリ科やナス科作物も侵すので、多発ほ場では輪作体系を考慮する。

一般に排水不良や湛水した場合に発生が多いので、排水対策を第一に考える。薬剤防除は発生前から予防的に定期的実施する。特に風雨前の防除に心掛ける。

（耕種的防除法）

- （1）常発地では連作を避ける。（ウリ科，ナス科）
- （2）排水溝を整備し、高畦栽培とする。

(ケ) モザイク病

(防除のねらい)

キュウリの項参照

(耕種的防除法)

- (1) ムギなどの間作，寒冷紗被覆やシルバー，銀色ストライプマルチ等の被覆を行う。
- (2) 育苗期には，有翅アブラムシの飛来侵入を防止する。

(コ) ミナミキイロアザミウマ・アザミウマ類

(防除のねらい)

キュウリのミナミキイロアザミウマの項参照。

スイカの被害は芯葉の萎縮など，草勢を著しく悪くするので，初期防除に重点を置く。

(耕種的防除法)

キュウリのミナミキイロアザミウマの項参照。

(サ) コナジラミ類

(防除のねらい)

被害は作物によって異なり，スイカでは主に吸汁害とすす病の発生による果実の汚れが問題となる。多発すると防除が困難なので，発生初期から防除する。

(シ) アブラムシ類・ワタアブラムシ

(防除のねらい)

(耕種的防除法)] キュウリの項参照

スイカではつる先に集中加害して生育を遅らせるので，防除は早めに実施する。

(ス) ウリノメイガ (ワタヘリクロノメイガ)

(防除のねらい)

キュウリの項参照

(セ) ハスモンヨトウ

(防除のねらい)

多発年には被害がでる。孵化幼虫は集団で葉裏から表皮を残すように食害し，その後分散して1カ所に数匹で食害する。老齢幼虫になると防除が困難となるため，早期発見に努め，若齢期に防除する。

(ソ) オオタバコガ

(防除のねらい)

多発年には被害がでる。葉だけでなく，果実の表皮を食害して品質の低下をきたす。老齢幼虫になると防除が困難となるため，早期発見に努め，若齢期に防除する。

(タ) ウリハムシ

(防除のねらい)

直播きや少面積の露地栽培で被害を受けることがあるが，ハウスやトンネル栽培での実害はほとんどみられない。

(耕種的防除法)

キュウリの項参照。

(チ) ハモグリバエ類

(防除のねらい)

トマトのマメハモグリバエの項参照。

(ツ) ハダニ類

(防除のねらい)

トンネル，ハウス栽培で4月以降高温・乾燥の状態が続いた場合，急速に増殖する。生育後半密度が高くなってからの防除は効果不十分なので，早期発見，早期防除に努める。発生源対策として苗床の徹底防除と定植後の周辺の雑草防除も考える。

防除薬剤は感受性の低下が問題になっているので，薬剤の選定に留意する。

(耕種的防除法)

- (1) ハウス周辺の雑草を除去する。
- (2) ハウス栽培では終了後に蒸し込みをする。

(テ) ネコブセチュウ

(防除のねらい)

キュウリの項参照